

12

詩經六編

(二) 三
四
五
六
七
八
九
十



一のやさむら
 どののやまふ
 むれとるえの
 まア目の見え
 ぬとるものある
 おつるさんまへ
 つてでござんませ
 「あせうの七ちづ
 つて」やるせとの
 るやうであるぬ
 やうであるやうだの
 ぞちうつま「あせこのかみ
 もぞちうつま」「のやまこ
 ゐまぶゆこれかうたやト
 るまうそ武士のみざれやれ
 いなりにもようひらあのはい
 ろりのはごあんまりとあんの
 下さうくひまほしなうくをひら
 りるにあらじをすてこけおして
 をどり入るひろがね成るあ
 ひびうらぎあうせんされ
 どうもよろきぬ 一

①
 あつたの
 ありけりか
 どうであらうト
 よもつたけれがなわんまの
 とけりすちびつかけはさるけり
 低くまゐるとこのまのすまゐ
 むより矢つだにやふらそ
 ければまゐりの八分さまり
 うのかへひきうまをてそ
 こして毒々そのすのふ
 けるのもえせつけあつとち
 まめてまゐるむのあつするまゐくよ
 うちをならハ衆らんや
 つぎたりけん笑つ
 きたるてめとめへづむ
 とのぶふいつけられ
 たぢくとまろ
 ささうをぬきて
 たるじろこころ
 ひかうぶがう
 えふか
 寄せけれ
 めぢり
 あども

②
 ひとちたてふ
 わくしけれがはる
 大きくようこびけり
 やめきてんでふゆ

[illegible]


 三のく
 いさひと
 まるゝを
 たのむに
 るまはつ
 のうにふ
 つまはつ
 あかき
 そろもい
 をそとこ
 せとの
 まるゝ
 やん



氏の家が
けろく
をえ
る
女のうちで
ゆかきぬ
るやうな
てあつん
どどうとや
アアそのつとけん
日ごろからあまの
あひさんあひさの
つねなのつとあひ
まふよりあひさの
尾山あひさの川
あひさの川
あひさの川
あひさの川
あひさの川
あひさの川
あひさの川
あひさの川



口上 海老やまもつら
けまくのあひだふ 三

[illegible][illegible][illegible]

○より時のせうの
る花新法で煮る
せぐと
落し弁
ののと
お梅



血
玉のごとく
赤くともあま
さうきでもか
つたのよく
のさすうけあひ

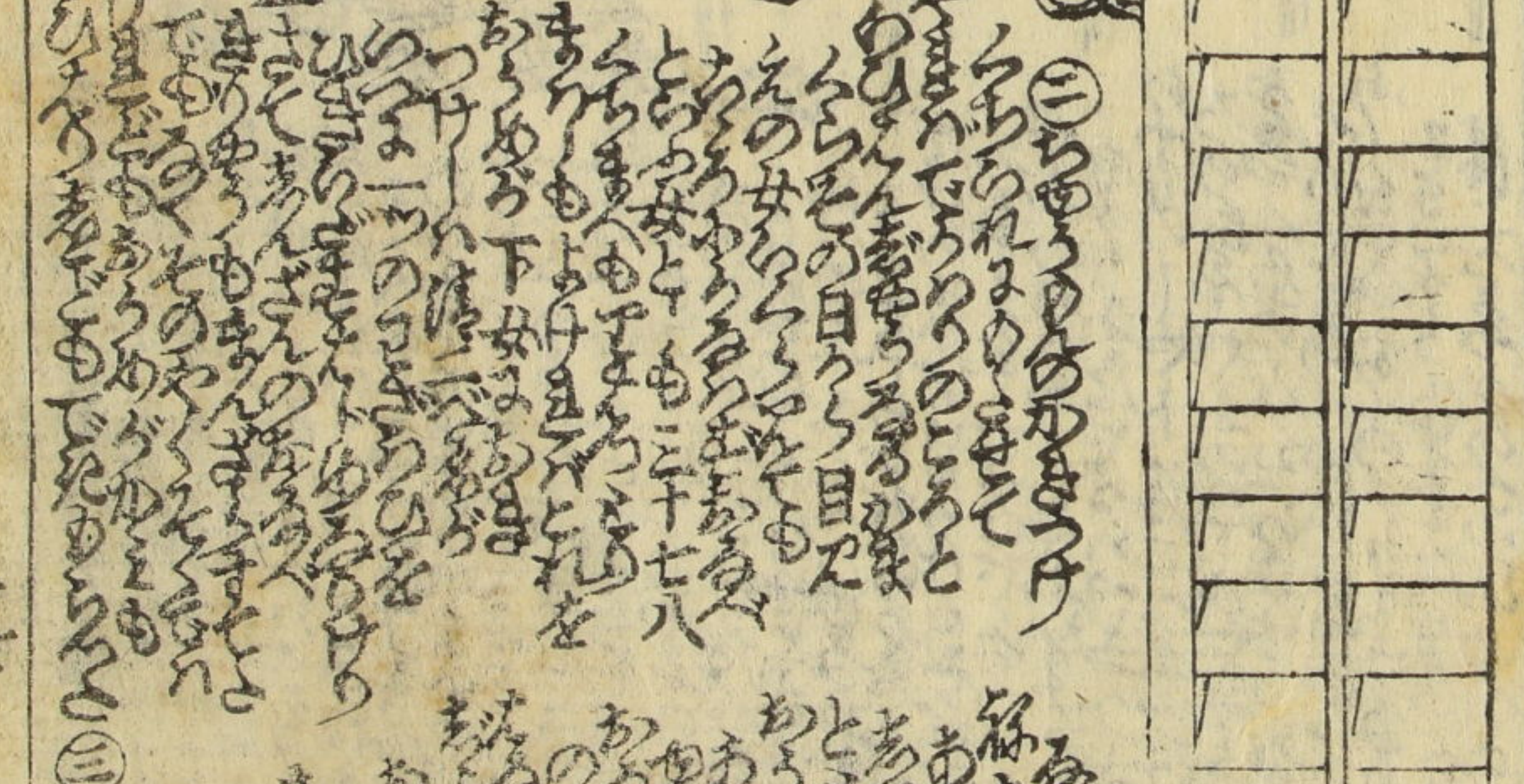
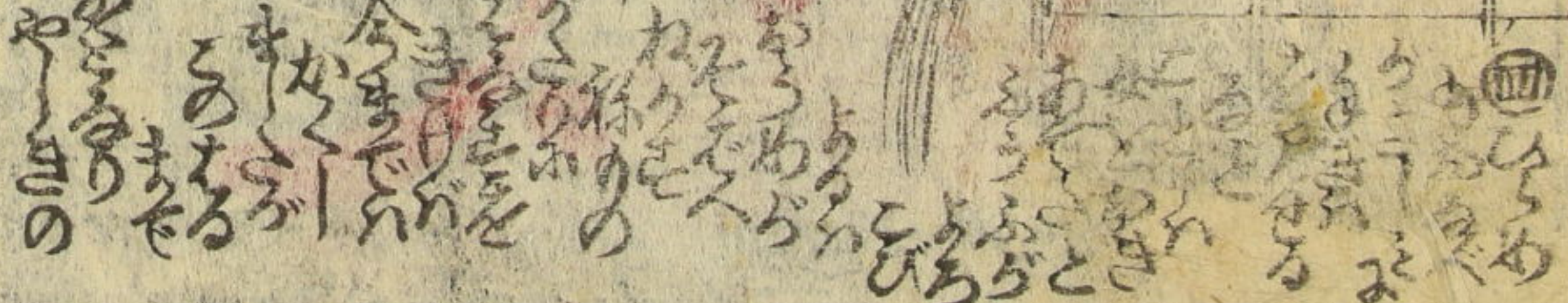
十二味
ふきやあういと
土あきあうい
一袋百廿二せん
才一のを
きめ
をてあ
るあう



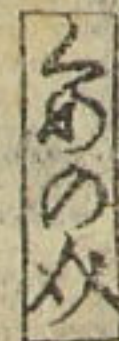
不

一、女たらしと甘菜男
大衆やく女八月や
る内の人をむ
ふちぎらり
男のかしら
あもろそ
だとも
その
ため
あも
きり
人ま
どの
くも
まこ
さる
さる
な



[illegible]

高田のふ
次へ



ちやうどいふやうに

第四心のかゝる理今とある

卷之五

上

卷之五

[illegible]

六ひまが
つけて
きん
くすね
これとは
ゆくと
たぐひな
かまひー
かまふべ
いふ
あくて
あひひの
ふちせ
のそ
うまける
つぎく

入心太深

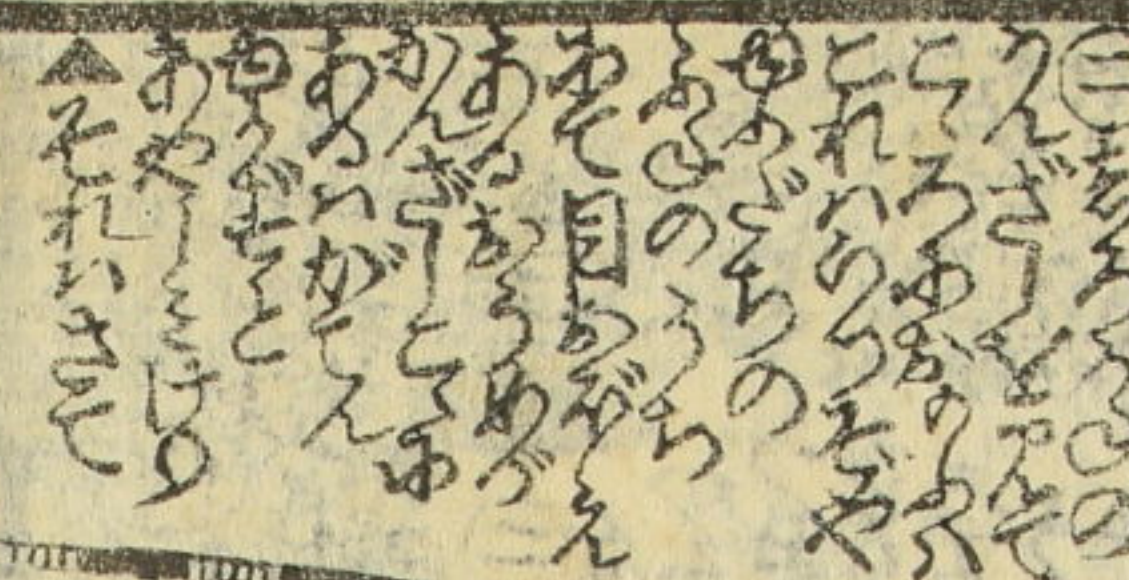


A woodblock print illustration from a Japanese book. It depicts a large, ornate lantern or screen with horizontal bands, surrounded by dense foliage and flowering branches. In the foreground, there are stylized trees and a fence. The scene is set outdoors.

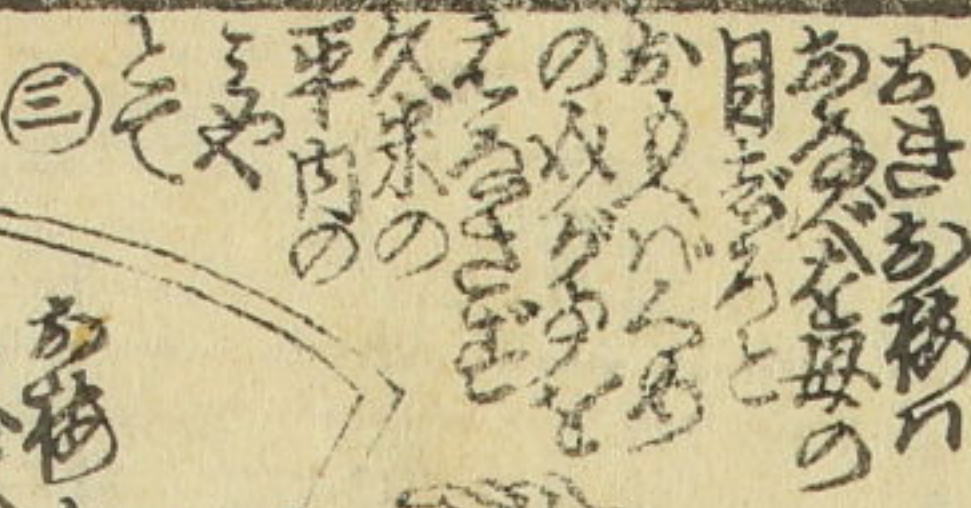
④ なるとみまれどてても
 くらげトとんあづ
 さうあんあうのうてを
 うまかんきうあむすび
 つけてるけなまぶらめ
 むさりあげんてとれめ
 たんさくあおさうを
 うつてえんとめたのま
 ままめあふせなひの
 つくさうてふト
 あるでもうあんあうの
 うまかんきうあむすび
 ⑤

○お桶が
下女
あるべ
きなり
○お桶が
あるべ
きなり





以太師



卷八

